

目の健康

加齢で水晶体が白濁 視力で困ったら手術

眼の中には、カメラでいうレンズの働きをしている水晶体という透明な組織があります。これが濁ってしまう病気を白内障といいます。

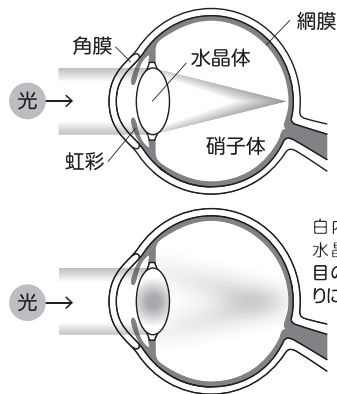
原因はいろいろあります。最も多いのは加齢によるもので、これを加齢性白内障と呼んでいます。発症の時期は個人差がありますが、誰でも年を取るにつれ発症し、80歳代ではほとんどの人が白内障になるといわれています。

白内障になると、眼鏡をかけても視力が出ない、霧がかかったように視界が白っぽくなる、明るいところで眩しく感じる、逆光で白くなって見づらい、物がだぶって見えるなどの症状が出ます。初期は点眼薬で進行を

抑えることもありますが、完全に進行を停止させたり、白濁した水晶体を元に戻すことはできません。最終的には濁った水晶体を取り除き、人工の「眼内レンズ」を入れる手術が必要です。

一般的に手術は、視力が低下し、日常生活に支障が出るようになってからに行いますが、トラックの運転手など十分な視力が必要な場合は手術の適応です。また、白内障のタイプにより、視力が良くても手術となることがあります。困らないからと手術を先延ばしにすると手術が難しくなることもあります。困りの場合は眼科を受診して相談しましょう。

眼球の断面図



白内障になると水晶体が混濁し目の中に光が入りにくくなります

宮久保 純子 先生 プロフィール

群馬大学眼科、前橋赤十字病院、前橋協立病院、平成5年宮久保眼科開業。平成12年～令和3年、令和5年～宮久保眼科院長
 ■専門分野／白内障、涙道閉塞疾患、眼瞼 ■日本眼科学会眼科専門医、白内障屈折矯正学会、涙器涙道学会会員他